

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Thin cutaneous malignant melanomas (< or =1.5 mm): identification of risk factors indicative of progression.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ8-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	10091790	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	85	
	号	5	
	ページ	1067-76	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1999 Mar 1	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Massi D	Istituto di Anatomia e Istologia Patologica, Universita degli Studi di Firenze, Italia
その他著者 1		Franchi A	同上
その他著者 2		Borgognoni L	Divisione di Chirurgia Plastica e Ricostruttiva, Ospedale S.M. Annunziata, Firenze, Italia.
その他著者 3		Reali UM	同上
その他著者 4		Santucci M	Istituto di Anatomia e Istologia Patologica, Universita degli Studi di Firenze, Italia
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	厚さ 1.5mm以下のメラノーマ患者における臨床的・病理組織学的に予後に影響を与える因子について調べる。	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Division of Plastic and Reconstructive surgery	
	対象者	1975 から 1993 年まで、厚さ 1.5mm以下の浸潤性黒色腫患者 287 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	腫瘍の厚さ+リグレーションの厚さ（T+R）、皮膚の厚さに対する腫瘍細胞の浸潤の厚さ（T/S）、皮膚の厚さに対する腫瘍の厚さ+リグレーションの厚さ（T+R/S）、年齢、性別、部位、組織型、クラークレベル、tumor thickness、リグレーション、浸潤するリンパ球、tumor growth phase	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	死亡	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	287 人中 32 人で病気の進行が認められた。5 年生存率は 89.3%、10 年生存率は 84.6%であった。単変量解析では、男性 ($P = 0.01$), acral-lentiginous type ($P = 0.02$), tumor thickness ($P = 0.005$), T+R ($P = 0.001$), T/S ratio $\geq$ or = 50% ($P = 0.03$), (T+R)/S ratio $\geq$ or = 50% ($P = 0.006$), vertical growth phase ($P = 0.04$), inflammatory response の欠如 ($P < 0.0001$) が有意な予後因子であった。 多変量解析では、T+R ($P = 0.009$) と inflammatory response ($P < 0.0001$) だけが有意な予後因子であった。	

	結論	厚さ 1.5mm以下のメラノーマ患者における進行に関する強い独立 予後因子は T+R と inflammatory response である。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ）